

令和 8 年度

第 1 回一関市博物館協議会

次 第

日時 令和 8 年 7 月 22 日（水）
午後 2 時から午後 4 時まで
会場 一関市博物館 研修室

<辞令書交付>

1 開会のことば

2 挨 拶

3 協 議

- (1) 令和 7 年度事業実績と内部評価について
- (2) 令和 8 年度事業の取り組み状況について
- (3) その他

4 その他

5 閉会のことば

令和8年度第1回一関市博物館協議会出席者名簿

■一関市博物館協議会（任期 令和7年7月1日～令和9年6月30日）

[敬称略]

No.	氏名	所属	組織区分	備考	出席
1	こ 小 やま なみ こ 山 奈美子				○
2	たか はし ひろ すみ 高 橋 弘 寿				○
3	さ じょう あや こ 佐 藤 文 子				○
4	きん の たか ゆき 金 野 敬 之				○
5	ち ば のぶ たね 千 葉 信 胤				○
6	さ の のぶ ひろ 佐 野 修 弘				○
7	ち ば さち こ 千 葉 幸 子				欠
8	いさ ご ふみ あき 砂 金 文 昭				○
9	すが わら まり こ 菅 原 真利子				○
10	くま がい つね まさ 熊 谷 常 正				○
11	たか はし あけみ 高 橋 あけみ				○
12	ひら さわ ひろし 平 澤 広				○
13	さ じょう ひとし 佐 藤 仁				○
14	ち ば じゅん こ 千 葉 順 子				○
15	もり ひで たか 森 英 隆				欠

■一関市教育委員会・一関市博物館

No.	氏名	役職名	備考	出席
1	とき えだ なお き 時 枝 直 樹	教育長		○
2	ほん だ よし のぶ 誉 田 慶 信	博物館長		○
3	さ さき しゅう じ 佐々木 修 路	博物館次長		○
4	おお ひら さ おり 大 衡 彩 織	博物館副館長兼学芸係長		○
5	はし もと よし こ 橋 本 美 子	博物館副館長兼庶務係長		○
6	そう ま み き こ 相 馬 美貴子	博物館主任学芸員		○
7	こ み ひろ ゆき 小 味 浩 之	博物館主任学芸員		○
8	しい の たつ や 椎 野 達 也	博物館学芸員		○

(正誤表)

資料名：協議 1 令和 7 年度 事業実績と内部評価

頁	行数等	誤	正
目次	③企画展 3	肝入 <u>り</u> の蔵書	肝入の蔵書

資料名：協議 2 令和 8 年度 事業の取り組み状況

頁	行数等	誤	正
1	下から 7 行目	<u>演奏</u> 番	<u>奏者</u> 番
3	本文 1 行目	<u>とり</u> とりどり	<u>鳥</u> とりどり
3	下から 10 行目	<u>矢</u> 法抜書	<u>弓</u> 法抜書
4	下から 14 行目	8 月 23 (日)	8 月 23 <u>日</u> (日)
7	下から 4 行目	和算 <u>課</u>	和算 <u>家</u>
11	Ⅲ(3) 4 行目、6 行目	動物 <u>型</u>	動物 <u>形</u>
13	VII		【追加】 ・ 博物館実習 (6 月 3 日～10 日 大学生 3 名を受け入 れ)

令和 7 年度 事業実績と内部評価

目 次

I	一関市博物館の設置理念と活動方針	1
II	事業実績と内部評価	3
i	展示活動	3
1	常設展示	3
2	特別展	4
	「千葉胤秀生誕250年記念 算額の世界」	
3	企画展	7
	① 企画展1 「暮らしのなかの道具」	
	② 企画展2 「Oこけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」	
	③ 企画展3 「村の学びと楽しみ 一本寺肝入りの蔵書から」	
ii	教育普及（交流連携）活動	12
1	講座	12
2	体験学習	15
3	その他の教育普及（交流連携）活動	16
iii	資料収集・保存・貸与・管理等	17
iv	調査研究活動	19
v	大槻家資料保存活用事業	21
vi	広報活動	22
vii	その他	23
III	資料	24
1	入館者統計	24
2	講師派遣等状況	25

I 一関市博物館の設置理念と活動方針

設置理念

一関市を中心とする岩手県南、宮城県北地方は、古代末期に日本刀の起源のひとつとされる舞草鍛冶が起こり、中世には中尊寺領骨寺村の開発や葛西氏400年の統治、近世には仙台藩伊達氏やその支藩である一関藩田村氏による藩制の展開、また、儒学者・蘭学者を輩出した大槻家の活躍、建部家を中心とした蘭医学や千葉家を中心とした和算の隆盛など、個性的な文化をもっていた。

このような、地域の歴史の流れとその文化的特色、舞草刀を中心とした刀剣、地域にゆかりのある先人たちの歩みと業績を主な対象として、歴史と文化をとりあげた人文系の博物館を設置する。博物館は、市民が地域の歴史的・文化的個性に親しみながら、普遍的な価値観や精神的な豊かさを追求する生涯学習の場とする。

その実現のために、以下の事項を達成すべき目標として掲げる。

1. 地域の歴史・文化の解明と継承に尽くす博物館

地域の歴史・文化にかかわる資料を収集し、それらを解明して、次代へ継承していくことにより、人々の生きる力や地域文化の向上に役立ち、また、進取、創造性に富む人材の育成に寄与することをめざす。

2. 研究成果を蓄積し情報発信・提供する博物館

学術調査・研究をすべての博物館活動の基礎と位置づけ、その成果を博物館の諸活動に反映させ、広く情報を公表し提供していくことにより、常に成長・発展する情報提供能力の高い博物館をめざす。

3. すべての人々が交流・連携し利活用する博物館

世代を越えたすべての人々が、自主的・主体的に交流・連携し、楽しみながら学び課題を解決し、そして、新たな価値を創出できるような、市民とともに歩む地域の知的創造活動のセンターをめざす。

活動方針

1. 資料収集・整理・保存

「地域の歴史」「舞草刀と刀剣」「大槻玄沢と蘭学」「大槻文彦と言海」「一関と和算」「地域の美術工芸」の6テーマにそった資料を収集し、整理して、確実に保存して次代へと継承する。

2. 調査・研究

前項1で掲げた6テーマを中心とした調査・研究を、地域の人々や研究機関などとの連携・協力のもとに推進・研鑽し蓄積していく。それらの成果は、資料収集に反映させ、展示、交流・連携、研究報告書、図録、学界(会)発表、情報提供・サービスなどにより公表していく。

3. 展示

(1) 常設展示

「一関のあゆみ」「舞草刀と刀剣」「玄沢と蘭学」「文彦と言海」「一関と和算」の5テーマに関して、地域の歴史と文化の変遷と個性を研究し、多様な資料により系統的に展示する。

(2) 企画展示

前項1で掲げた6テーマに基づき、調査・研究の成果の上に立って選定した各地の資料を系統的に展示する。図録や関連出版物を刊行して、より広く成果を社会に還元するとともに、情報を蓄積し将来の要求に備える。

4. 交流・連携

多様な講座・講演会・体験学習・見学会などを企画し、さらに、人々が世代を越えて自主的・主体的に学び考えながら交流を深めることができる機会を提供する。また、所蔵資料の貸出し、講演などの要望に対応していくとともに、友の会を設置するなど、あらゆる場面において市民個人・機関との連携を推し進めていく。

5. 情報提供・サービス

博物館が収集・蓄積した学術情報を発信・提供するとともに、その方法の迅速化・利便化をはかっていく。また、収蔵資料の利用についても積極的に対応していく。

平成16年8月26日一関市教育委員会了承

Ⅱ 事業実績と内部評価

i 展示活動

1 常設展示

事業名	概要(主な内容)	成果と課題 (○成果、☆課題)
常設展示	・常設展示の展示替えを行った。 ・戦後80年の節目にちなみ赤紙等戦災資料5点を展示した。 7月26日(土)～8月31日(日) ・骨寺村荘園900年記念特別展示を行った。 2月6日(金)～3月29日(日)	○通史展示室以外の展示室のキャプションの見直しを行った。
長沼守敬に関する展示	【目的・概要】 一関出身の洋風彫刻家である長沼守敬を顕彰するため、エントランスホールにパネルを展示(通年)。	○長沼守敬およびその業績を周知できている。
展示解説アプリ「ポケット学芸員」の活用 解説 37点	【目的】 展示物の解説をいつでもどこでも受けることができる体制を整備し、貴重な資料による学習の機会を確保する。 【概要】 スマートフォン等で利用できる無料アプリ「ポケット学芸員」を活用し、展示物の解説などを文字・画像・音声で提供している。スマートフォンを持っていない入館者にはタブレット端末の貸し出しを行っている。	○解説14点について、多言語対応とした。(英語・繁体字・簡体字・タイ語) ☆公衆無線LANの使用可能範囲が1階自販機周辺に限られ、2階の展示室で「ポケット学芸員」の表示を見てからダウンロードしようとするとう不便を生じさせる場合がある。 ☆コンテンツの追加

2 特別展

特別展「千葉胤秀生誕250年記念 算額の世界」

【趣 旨】

算額は、日本古来の数学である和算を学んだ人々が、数学の問題を書き人々の集まる寺社に奉納した絵馬の一種である。一関市内には、市町村単位では最多の67点の算額が現存しており、一関藩の算術師範役・千葉胤秀やその門人らにより、和算が大変盛んであったことを端的に示している。

学力向上の祈願のためや師匠の慶事の記念としてなど、算額奉納の目的はさまざまだったが、寺社に掲額されることで研究発表としての一面もあった。数学の実力を世間に知らしめることとなり、解法競争も行われるなど、算額は、我が国で和算が発展する原動力の一つとなった。

本展では千葉胤秀の生誕250年を記念して、現存する各地の算額を紹介するとともに、数学模型など和算に関連した資料を交えて、江戸時代の人々を魅了した算額の世界を俯瞰する。

【開催期間】 令和7年9月13日（土）～11月16日（日）

【開催日数】 56日間

【入館者数】 2,737人（48.9人／日）

【展示概要】

展示構成

- I 算額を奉納した和算家たち
- II 算額の数々
- III 記録された算額
- IV 算術の道具
- V 算額を受け継ぐ

【関連行事】

(1) 講演会

「奇跡の邂逅（かいこう）から生まれた小説

～千葉胤秀が江戸の数学道場に入るきっかけとなった山口和との出会い

講 師： 鳴海 風氏（作家）

日 時： 10月5日（日） 13：00～16：30

参加者： 39人

(2) シンポジウム「和算と数学の世界」

内容及び講師

記念講演「文化史から見た和算」 上野健爾氏（京都大学名誉教授）

報告① 「関孝和と関流の和算」 佐藤賢一氏（電気通信大学教授）

報告② 「関流和算の集大成『算法新書』」

菅原 通氏(岩手県和算研究会会長)

ディスカッション

参加者：61名

日 時：10月12日(日) 13:00～16:30

(3) 演奏会「歯車music音楽と数学の不思議な関係」

日 時：11月15日(土) 13:30～15:00

演奏者：岡 淳氏(音楽家)

参加者：67人

(4) 算額見学会

日 時：10月13日(月・祝) 9:00～16:00 博物館集合・解散

参加者：16名

(5) 展示解説会

日 時：9月21日(日) 13:30～14:10 9人

10月5日(日) 15:10～16:00 21人

11月2日(日) 13:30～14:10 15人

11月16日(日) 13:30～14:10 12人 合計 57人

解 説：当館学芸員

(6) 館長講座「藩の学校・養賢堂と教成館」

講 師：菊池勇夫(当館館長)

日 時：9月28日(日) 13:30～15:00

参加者：21人

【成 果】

- (1) 算額の実物14点(市内5点、市外9点)、復元5点、写真13点を展示した。展示面積の制約があり限られた数ではあったが、バラエティを出せた。中でも県内で1番目、2番目に古い算額、市内最古の算額も展示することで算額の変遷を紹介できた。また、室根の弥栄神社の算額は岩手県立博物館に収蔵され、なかなか公開機会がないものだが初公開できた。
- (2) 算額は、奉納者等の情報とともに、一部の問題についてその解法を簡単にパネルで解説し、さらに図録で詳しく解説した。また算額以外の資料も展示し、文化史と数学史の両面から紹介することができた。
- (3) 難解なイメージをもたれる内容であったが、みどころを伝える和算博士のコメントが好評で、アンケートでも、数学や和算に詳しくなくても理解の助けとなったとあった。
- (4) これまで岩手県和算研究会とともにやってきた活動の成果を公表することができた。展示に向けて交渉する中で、一関は和算の本場だからなどの言葉をかけられることが多く、これまで

の当館の活動が認知されていることを感じた。

- (5) 和算の研究者や算額のアーカイブスを作っている研究者から、情報や画像の提供や広報等、協力を得ることができた。
- (6) 千葉胤秀の生誕の地であり旧宅のある花泉でも、図書館、先人顕彰会、老松市民センターで展覧会の見学や広報の協力や、関連する独自の取り組みがあった。
- (7) 算額を所蔵する神社の中には当初貸出に難色を示す所があったが、交渉の結果、希望する算額を借用することができた。また、各神社の関係者にも喜んでもらえた。
- (8) 千葉胤秀も登場する小説の作家の講演会、和算研究をリードする研究者によるシンポジウムを開催したことで、展示内容及び和算文化への理解が深まった。
- (9) 算額見学会の参加者からは、実際に奉納されている場所を見ることは貴重な体験であったと好評であった。
- (10) 数学と音楽の関係を盛り込んだ演奏会では、普段当館を利用しないような客層を集客した。
- (11) 入館者の約1.3%のアンケート結果であるが、満足、まあ満足と回答した人が9割を超えていた。

【課題】

- (1) 入館者数が、目標が5,500人に対し、半分ほどで低調であった。また、講演会、シンポジウムの参加者も少なめであった。実際は「数学」「和算」に特別な知識がなくても楽しめるものであったが、「数学」「和算」とあるだけで興味の対象外とする人もいたと思われるので、その壁を突破する工夫が必要であった。
- (2) 図録に掲載した数式の活字化について印刷会社でもノウハウが不足しており、表現、統一に時間を要し、全体の構成にも影響した。早期の着手が必要であった。
- (3) 資料保全のため照度を落としていたため、暗いという指摘があった。
- (4) 文字が小さいパネルがあった。また人名にはルビをつけたが、資料名は読みが定まっていないうものが多くルビを付けていなかったため、不便を感じさせてしまった。
- (5) 数年前には存在を確認していた資料が、所蔵不明となっているものがあった。なんらかの対策が必要と感じた。
- (6) 展示台を急いで作成したため、接着剤の有機ガスが展示ケース内に放出される事態となった。作成から使用までに枯らしの期間が必要であった。終了後に、展示ケースと新規作成した展示台に送風し有機ガスを排出した。
- (7) 市内の神社や個人所蔵の資料について、東北歴史博物館に依頼して燻蒸を実施したが、東北歴史博物館では、現在使用している燻蒸用ガスの生産中止に伴い、自館で燻蒸できなくなったとのことで、今後燻蒸を受け入れてもらえる施設がない。
- (8) 算額見学会の参加者からは、千葉胤秀旧宅について存続を懸念する声が多くあがっていた。

3 企画展

企画展1「暮らしのなかの道具」

【趣 旨】

一関周辺で使われたむかしの道具について紹介する。

【開催期間】 令和7年1月25日(土)～5月18日(日)※令和6年度からの継続開催

【開催日数】 98日間(うち令和7年度分は42日間)

【入館者数】 3,315人(33.8人/日)(うち令和7年度分は1,687人、40.2人/日)

【展示概要】

- ・導入(昭和のレコード、ホーロー看板、デパート広告)
- ・昭和の生活道具(炊事、洗濯、ラジオ、テレビ、バリカン、カメラなど)自由導線
- ・ある日の六畳間(ちゃぶ台、茶箆筥、白黒テレビなどを配置し、六畳間を再現)

展示資料数 約161点

【関連行事】

(1) 展示解説会

日時および参加者(令和7年度分)

4月29日(火・祝)	13:30～14:10	9人	
5月4日(日・祝)	13:30～14:10	8人	
5月5日(月・祝)	13:30～14:10	11人	
5月11日(日)	15:10～15:50	1人	
5月17日(土)	13:30～14:10	5人	
5月18日(日)	13:30～14:10	12人	計 46人

解 説: 当館学芸員

(2) 館長講座「餅の文化史」

講師: 菊池勇夫(当館館長)

日時: 5月11日(日) 13:30～15:00

参加者: 11人

【成 果】

- (1) 展示利用しにくい大きなレコードコンポなどを展示できた。
- (2) 販売している昔の暮らしの道具のパンフレットをもとに展示を構成することで、相互に理解を助けることとなった。
- (3) ちゃぶ台や白黒テレビを配置した六畳間を再現展示し、来館者の郷愁を誘うほか、かつてそれらの道具を使用した経験のある来館者が、同伴者と昔の暮らしのついて語らうきっかけとなった。
- (4) 来館者(例えば親子連れ)同士のコミュニケーションや思い出話が図られるように、資料

個別の説明を極力少なくし、主要な道具の説明を天井から掛け軸状に吊るした。掛け軸状に吊るした解説により、展示室を立体的に構成することができた。

- (5) 展覧会終了後、常設展示していた昔の道具コーナーの展示物を見直し、特に小学校第3学年社会科「道具とくらしのうつりかわり」において、教科書に掲載されることの多い、二層式洗濯機、手回し洗濯機、白黒テレビ、木製冷蔵庫などに組み替えた。
- (6) 会期が小学校の3学期にかかることで、小学校の学習利用に柔軟な対応をすることができた。これまでの昔の道具コーナーは、今の小学生からすると古すぎる道具（ひいおじいさん・おばあさん世代のもの、藁を材料としているもの）が中心であったので、テレビやレコードプレーヤー、ダイヤル式電話機など、おじいさん・おばあさんの時代の道具を中心に展示資料を選定した。

【課題】

- (1) 展示解説を簡略化したことで、資料個別の年代を表記することができなかった。アンケートに年代を記してほしいという回答があったので、大まかな年代（昭和30年代、平成初期など）を示すことができれば、なお充実した内容になったと考える。
- (2) 年代をまたいだ展覧会であり会期が長かったが、資料に入れ替えは2か所のみであった。そのため、会場全体の雰囲気を変えるには至らなかった。入れ替えた資料が何であるか分かりやすくしたり、入れ替え展示資料を増やしたりする等、長期の展覧会にかかる工夫が不足していたと考える。

企画展2「Oこけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」

【趣旨】

令和6年度に横地儀房氏から寄贈を受けたこけし約400点を初公開する。それらのほとんどは、昭和時代に東北地方で作られた「伝統こけし」である。

また、一関市で昭和36年から49年まで開催された「東北地方こけしコンクール」についても取り上げる。このコンクールのねらいは、みちのくの風土に生まれたこけしを市民へ紹介するとともに、観光・産業の振興に寄与することであった。出品されたこけしの審査に加え、即売もされたため、大いににぎわった。

土産物であり、今では美術的価値の高い工芸品として、また、地域の歴史や文化、産業や観光の振興に関わる品としての側面も有し、往時は子どもの玩具であった「こけし」を多数展観することにより、古くから人々の心を捉えてきたこけしの魅力に改めて触れていただく機会とする。

【開催期間】 6月21日（土）～8月17日（日）

【開催日数】 50日間

【入館者数】 2,697人（53.9人／日）

【展示概要】

展示構成（自由動線）

- ・こけしについての基礎知識
- ・東北地方の伝統こけし12系統
- ・こけし（活動した県で工人を分類）
- ・いずめ・えじこ
- ・一関ゆかりのこけし工人
- ・「東北こけしコンクール」新聞記事
- ・「東北こけしコンクール」記録映像および関連資料

【関連行事】

(1) 講演と対談 楽しみのこけし

講 師：青野由美子氏（カメイ美術館学芸員）

日 時：6月22日（日） 13：30～15：00

参加者：20名

(2) 館長講座 「旅人のみた一関・山目 一他者の観察眼一」

講 師：菊池勇夫（当館館長）

日 時：7月20日（日） 13：30～15：00

参加者：26人

(3) 博物館でアートを楽しむ「こけし絵」をかいてみよう

講 師：いわい美術振興協会

日 時：8月2日（土） 午前の部 9：00～12：00

午後の部 13：00～16：00

参加者：17名（小学4年生以上）

(4) 展示解説会

日 時：7月6日（日） 13：30～14：10 21人

8月3日（日） 13：30～14：10 21人 合計 42人

【成 果】

- (1) 昨年度寄贈を受けたこけしのコレクションを紹介した。資料数が多数であったが、本展で全資料を展示し、迅速な公開ができた。これは、当館における資料収集、調査、展示それぞれの活動が充実し連関している証左であると言え、それを示すことができた。
- (2) 地震によるこけしの転倒防止対策を試行錯誤の上編み出し、展示手法の獲得に至った。
- (3) 一関市で開催された「東北こけしコンクール」にまつわる情報が、図らずも展示準備過程で複数もたらされた。それらを活用し、展示したこけしコレクションと地域との関わりを新たな視点から捉え、紹介することが出来た。

- (4) 講演会講師からの指摘により、展示したコレクションの特色（質、保存状態ともに良好）が確認された。
- (5) 会場に掲示した東京地方の伝統こけし12系統のパネルが分かりやすく、イラストも入って親近感が持てると好評であった。

【課 題】

来場者による撮影のあり方について、課題が浮かび上がった。本展では著作権の観点により撮影を不可としたことから、アンケートでは不満の声も寄せられた。来場者にとっては撮影できる喜びが得られるであろうし、館としてもPRにつながる等のメリットがあるが、著作権上問題が無いとしても会場内での撮影を可とすることは、撮影者が他の来館者の動線を妨げたり、シャッター音を響かせて鑑賞を妨げるなどデメリットもあるため、何でも何時でも撮影を可とすれば良いとも言えない。来場者の満足を考慮しながらも、展覧会の性格や展示資料・作品の展示方法等に即してその都度検討する必要性を再確認させられた。

著作権の関係で、出品作品の画像使用は1点にとどめざるを得なかった。

企画展3「村の学びと楽しみ ―本寺肝入の蔵書から―」

【趣 旨】

村の肝入の家では、教養書から実用書まで、さまざまな種類の本を集めて、生活に生かしており、それらの蔵書は村の内外に貸し出され知識の広がりにも影響を与えた。

一関市巖美町本寺の肝入を務めた佐藤家にも和算・医学・謡本・漢籍などの多様な書籍が残されていた。これらの書籍からは、佐藤家が村政を担うだけの教養を身につけた存在であることがわかる。

当館所蔵の佐藤家文書は、平成17年（2005）に「前要害屋敷佐藤家文書目録一覧表」として公開され、平成21年（2009）に「陸奥国磐井郡五串村本寺佐藤家文書詳細目録」として項目ごとに整理し公開されている。

本企画展示では、調査成果を公表するとともに、肝入の家に伝えられた書籍類から、村の文化と教養について紹介する。

【開催期間】 1月24日（土）～3月22日（日）

【開催日数】 50日間

【入館者数】 1,234人（24.7人/日）

【展示構成】

- I 五串村端郷と肝入
- II 村の学び（手習い、漢籍、和算、医学、天気）
- III 村の楽しみ（料理、小笠原流礼法、お出かけ、謡本、生け花、その他）
- IV 蔵書をめぐる村の交流

【関連行事】

(1) 講演会 「近世・近代本寺の書籍と文化」

講 師：竹原万雄氏（尚絅学院大学准教授）

日 時：2月22日（日） 13：30～15：00

参加者：19名

(2) 館長講座 「地域社会の文化力」

講 師：菊池勇夫（当館館長）

日 時：3月15日（日） 13：30～15：00

参加者：23人

(3) 展示解説会

日 時：2月1日（日） 13：30～14：10 2人

2月22日（日） 15：10～16：00 11人

3月15日（日） 15：10～16：00 5人 合計18人

【成 果】

(1) 中世前期（平安期～南北朝期）に注目が偏りがちな本寺地区について、竹原氏の研究成果を下敷きに近世・近代の骨寺村村落調査研究の成果を公表できた。

(2) クイズ、地図が好評だった。

【課 題】

(1) 入館者数は目標人数（2,000名）の61.7%で達成できなかった。

(2) 来館者は周辺地域の住民やリピーターが目立ち、一関市民以外の来館者が少なかった。

ii 教育普及（交流連携）活動

1 講座

事業名 期日・回数等・参加人数	目的と概要(主な内容)	成果と課題 (○成果、☆課題)
館長講座（再掲） 4回・81人 (1)「餅の文化史」 5月11日(日)・11人 (2)「旅人のみた一関・山目 ー他者の観察眼ー」 7月20日(日)・26人 (3)「藩の学校・養賢堂と教成館」 9月28日(日)・21人 (4)「地域社会の文化力」 3月15日(日)・23人	【目的】 当地域に関わる館長の研究の一端をわかりやすく紹介する。 【概要】 左欄のとおり	○特別展や企画展に関連した講演会を館長が行うことで、各展覧会への興味を喚起できた。
講座「超初心者のための絵の見方」当館学芸員 2回・22人 (1) 日本画編 7月19日(日)・15人 (2) 版画編 8月16日(日)・7人	【目的】 美術に関心はあっても「知識がないから楽しめないような気がする」「美術館や博物館に行きたいが気後れする」という鑑賞初心者に、作品鑑賞の楽しさを伝える。 【概要】 学芸員と一緒に館蔵作品を見て楽しむ。	○館蔵作品を間近に見てもらいながら解説を行うスタイルを採ったことで、美術についての関心が高まった様子であった。 ○参加者からは来年度も開催して欲しいとの要望があった。
古文書初心者講座 3回・42人	【目的】 古文書に親しみ、その意義を知る。 【概要】 はじめて古文書を学ぶ人を対象に江戸時代の古文書を教材としてくずし字や古	○様々な古文書を利用して、基礎的な知識の習得に寄与した。 ☆初心者だけでなく、ある程度の知識を持った人もおり、知識や理解度に差があるため、進め方が難

	文書の基礎知識を学ぶ連続講座。	しい。
古文書講座 3回・38人	【目的】 古文書に親しみ、その意義を知る。 【概要】 当館所蔵の江戸時代の古文書を解説して、地域の歴史を読み取る連続講座。	○開催中の特別展に関するもの、仙台藩の農政や郷土芸能に関するものなど、古文書を通して様々な角度から当地方の歴史の一端を理解し、古文書の意義を知る一助となった。 ☆興味を持った参加者が継続して学習できる場が必要。
和算講座入門編 3回・38人 (1)「生誕250年千葉胤秀」当館学芸員 7月26日(土)・13人 (2)「和算書のベストセラー『塵劫記』と岩手」菅原通氏 8月9日(土)・12人 (3)「和算書の読み方」千葉秀昭氏 8月23日(土)・13人	【目的】 和算の歴史と文化的な側面をさまざまな切り口から知っていただく。 【概要】 岩手県和算研究会との共催で実施し、2回の講師は研究会会員。内容は左記のとおり。	○和算を文化史の面から紹介する機会となった。 ☆参加者を増やすため、幅広い広報が必要。
和算講座研究編 6回・56人	【目的】 江戸時代の数学を学び、和算家の思考を知る。 【概要】 一関の和算家千葉胤秀の書『算法新書』等を使用して問題を解く。岩手県和算研究会との共催で実施し、講師は研究会会員。	○千葉胤秀の編著を通して和算の考え方について意見を交わしながら深く研究することができた。 ☆他県からの参加者もあり、参加が広域になっている一方で市内からの参加者が少ない。 ☆成果をまとめることが希望されている。

紙の文化史 入門編 2回・7人 (1)「紙とは何か」 6月29日(日)・3人 (2)「和紙と洋紙」 7月13日(日)・4人	【目的】 和紙や洋紙など身のまわりにある紙について、科学的な特徴や歴史を解説する連続講座。 【概要】 紙の発明から日本への製紙技術の伝播を概説した。和紙と洋紙の違いを、マイクロ스코プを使って繊維観察を行い、各紙の違いを講義した。また、市の特産品でもある東山和紙について、いわれについて紹介した。	○聴講者から、紙について、材料学的な内容を学ぶ機会が無かったので、学べるよい機会になったとの感想を得た。 ○東山町の地域おこし協力隊員の参加があり、東山和紙の振興について今後取り組んでいきたいので、知識を増やす良い機会であったとのことであった。 ☆東山和紙を産するほか、製紙工場を有している当市にもかかわらず、聴講者数が伸びなかったことから、市民の紙に対する関心はあまり高くないのではないかと感じた。ただし、講座のタイトルやテーマ設定によっては、関心を集めることができるかもしれないと考える。
重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会 「言葉と辞書」 11月3日(日・文化の日)・26人	【目的】 重要文化財「大槻家関係資料」に関する多様な研究成果を公表する。 【概要】 ①講演「蘭学から日本語学へ、継承と変革 大槻家と日本辞書『言海』」田鍋桂子氏(明海大学准教授)	○国語辞書『言海』の編者として知られる大槻文彦のみならず、学問の家大槻家と言葉との関わりを紹介できた。 ☆遠方からの参加者も見込めるため、広報媒体に工夫が必要。

	②報告1「辞書作りの日常 一文彦おじいちゃんの場合」当館職員 ③報告2「翻訳語と大槻玄 沢」当館職員	
--	---	--

2 体験学習

事業名 期日・回数等・参加人数	目的と概要(主な内容)	成果と課題(○成果、☆課題)
はくぶつかんこどもくらぶ 6回・102人 (1)こどもくらぶスペシャル 5月4日(日)、5日(月) (2回)・87人 (2)江戸時代のうつし絵をつ くろう 8月10日(日)(4回)・15人	【目的】 当館の展示テーマに関連した体験を通して、歴史や当館の展示に親しんでもらう。 【概要】 左記のとおり	○親子で博物館に親しむ機会となった。 ☆興味を持ってもらえるような広報が必要。
博物館でアートを楽しむ 「こけし絵」をかいてみよう(再掲) 8月2日(土)(2回)・17人	【目的】 市民に対し多様な美術体験の機会を提供し博物館に親しんでもらう。市内の美術団体との交流を図り、協力関係を築く。 【概要】 いわい美術振興協会会員を講師として迎え、美術を楽しむ活動を展開。 いわい美術振興協会との共催。	○制作を通じて当館および展示内容に関心を持ってもらうことができた。市内の美術団体との交流を通じて、協力関係を築けている。 ☆講師の高齢化。
第24回和算に挑戦 12月1日(月)～1月20日(火)・応募者495人 解答数699件	【目的】 和算の問題を解くことで和算について理解を深める。 【概要】 岩手県和算研究会の協力を得て、和算の問題を現代風に直し、	○多くの人に、和算を知ってもらう機会を提供でき、来館にも結びついている。この事業そのものが全国にも注目され、和算、一関の知名度アップにつながっている。

	初級(小学生以上)、中級(中学生以上)、上級(高校生以上)の3題を出題。チラシやホームページ等で周知し、解答を募集。解答は郵送で提出していただき、共催・協力団体による審査の上、館長賞、岩手県和算研究会会長賞、優秀賞、和算博士賞を選定した。 表彰式を開催し、参加者には「解答集」を配付した。応募状況や解答例はホームページで公開するほか、関連資料を「一関と和算」の展示室で紹介した。今回は第24回。 共催:岩手県和算研究会/協力:一関地方教育研究会中学校数学部会、同小学校算数部会/後援:和算研究所、岩手県高等学校教育研究会数学部会	○解答集は希望者に電子データで配布し好評であった。ただし、従来どおり冊子を希望する人が多い。 ☆参加者が減少傾向である。
--	---	--

3 その他の教育普及（交流連携）活動

事業名 期日・回数等・参加人数	目的と概要(主な内容)	成果と課題(○成果、☆課題)
古文書ボランティア 12回 延べ36人	【目的】 膨大にある未整理の古文書の整理を進める。 【概要】 一関市古文書に親しむ会会員であった有志に下油田村小野寺家文書の整理作業を行っていただいた。	○着実に古文書整理を進めていただいている。 ☆一関古文書に親しむ会は、高齢化等により解散しており、新たな方法での参加者の確保が必要。

来館対応・講師派遣等	【目的】 各種団体等の生涯学習活動に貢献する。 【概要】 詳細別紙 (資料：来館対応・講師派遣等)	○生涯学習の要求に応えることができた。学芸員と地域とのつながりができ、他の事業にもよい影響をもたらした。 ☆学芸員の日程調整により希望に添えない場合がある。
------------	---	---

iii 資料収集・保存・貸与・管理等

事業名 期日・回数等・参加人数	概要(主な内容)	成果と課題(○成果、☆課題)
資料の受け入れ	寄贈 9件 79点 寄託 1件 1点 購入 6点 (『瓊浦筆語・附磐溪小稿』『丁卯紀事』『瓦版嘉永三年二月五日辰ノ中刻ヨリ江戸出火場所細見』『福井良之助孔版画集第1集』『花菖蒲図譜』全4巻』『桜花図譜一』)	○収集方針に則った収集が図られている。 ○当館の活動が周知されてきたこともあり、収集方針に適合した資料寄贈の申し出が多い。 ☆収蔵スペースの確保。 ☆一括して寄贈された資料の整理を迅速に進めることが必要。 ☆収集対象資料が突然市場に出た際の対応に苦慮する場面がある。
資料の修復	刀剣修復 3点 絵画等の修復 16点 (日本画下図15点、油彩画1点) 古文書修復 3点 合計 20点	○修復により、良好な状態での保存および展示が可能となった。
資料の貸出	他館への貸出等 ・岩手県立博物館 貞享暦ほか4点 ・仙台市博物館 田村家系図ほか11点 ・東北歴史博物館・東北放送	○他館の活動に協力した。また、当館とは別の切り口で所蔵資料を広く知らせることができた。

	(株) 動物形土製品 (コノハズク) ・奥州市立高野長英記念館 民間備荒録ほか2点 ・えさし郷土文化館 北海道 白老郡支配被仰付御沙汰書 ・芦東山記念館 奉参詣諸国神社仏閣三ほか7点	
保存環境	公共施設等総合管理計画に基づき施設改修等を行い、資料の保存環境の維持改善を図った。 ・展示室照明設備改修工事 通史展示室と企画展示室のウォールケース内のLED照明化を行った。 ・空調設備改修工事 給水ポンプや冷温水発生器等の空調設備の交換等を行った。 ・非常放送設備改修工事 老朽化していた非常放送設備を改修した。	☆経年による老朽化により、温湿度調整が困難になりつつある。 ☆施設改修等について計画的に実施しているが、突発的に修繕が必要になる場合があり、優先度の選定に苦慮している。
環境調査 展示・収蔵施設等の保存空間環境測定 (1)9月12日～9月30日 (2)1月6日～1月20日	加害生物(昆虫)生息調査・浮遊菌調査・空調風速調査・温度湿度調査・粉塵調査・有機酸およびアンモニア濃度調査	○館内の環境を確認した。 (1)ヒメマルカツオブシムシの幼虫が荷捌室と機械室で、ヤマトゴキブリが企画展示室でそれぞれ捕獲された。 (2)チャタテムシが僅かながら展示ケース内、荷解場等捕獲された。 ☆清掃、温湿度管理、酢酸・アンモニアの除去、環境調査を継続することが必要。 ☆新たに造作した木製演示具の接着剤

		由来の酢酸によると思われる濃度上昇が確認された。対象の演示具は送風機により風乾し、その後の環境測定においては規定値以下となった。
施設燻蒸等 12月11日～12月17日 第1収蔵庫、第2収蔵庫、 収蔵庫前室	館内において、燻蒸、および塵埃等の除去と除菌を実施し資料の安全な保存に資する。	○第1・第2収蔵庫及び収蔵庫前室の燻蒸を実施し、加害虫および菌の死滅を確認した。 ○収蔵庫のクリーニングを実施した。 ☆収蔵庫内が狭隘となり、クリーニング作業の導線確保が難しくなっている。
収蔵品管理システムの運用	収蔵品のデータベース化を促進し、運用を図る。	○博物館ホームページの館蔵品検索で、収蔵品の一部を公開している。 ○展示室の主要な解説文と資料について、多言語化〔英語、中国語（簡体・繁体）、タイ語〕を行った。 ○多言語化に伴い、データベース入力システムも多言語入力に対応できるようフォーマットを修正した。 ☆職員の繁忙のため、入力作業に時間がさけていない。

iv 調査研究活動

事業名 期日・回数等・参加人数	概要（主な内容）	成果と課題 (○成果、☆課題)
調査研究	「地域の歴史研究」「舞草刀・奥州刀の研究」「大槻玄沢と蘭学の研究」「大槻文彦と言海の研究」「一関と和算の研究」「地域の美術工芸の研究」「博物館研究」等	○研究成果を研究報告や展覧会、交流連携活動に反映させた。 ☆研究時間の確保。

一関市博物館研究報告（第29号）の発行 令和8年3月発行・500部	『『応思穀恩編』にみる仙台藩・一関藩 江戸の天保飢饉情報―』ほか計6本の論考を収録、関係機関に配付	○研究成果をまとめて公表できた。 ☆継続および充実が必要。
骨寺村荘園遺跡村落調査研究 研究報告会 1回 2月15日(日)・65人	調査研究報告会の開催 【内容】 ①「まつり田」のなかの「こまか田」 菅田慶信氏 ②中尊寺所領としての骨寺村―他事例との比較から― 岡陽一郎氏 ③天明飢饉の影響について―乏しい資料― 当館館長 ④村役人層と和算 当館学芸員	○2月に調査研究報告会を開催、参加者65人。 ☆新規の資料がなく研究は停滞気味。 7. 8年度は、報告書は発行せず9年度に発行予定。 ☆新たな研究協力者の獲得が課題。
古文書等資料調査 (1)古文書資料	古文書の整理・目録のデータベース化 ・大町佐藤家文書 ・千厩町千葉家文書 ・花泉小野寺家文書 ・藤沢及川家文書	○整理・目録作成が進展した。 また、調査内容が展覧会等の充実に結び付いている。 ☆一関古文書に親しむ会(令和6年解散)元会員によるボランティア、千厩古文書に親しむ会の活動の一環として実施しているため、量をこなすことができない。整理が必要な文書は数多く、また所有者も高齢化していることから、推進力を高めるために新たな方策が必要となっている。
(2)美術資料	美術作品および資料ならびに作家とその周辺に関する調査 ・福井良之助関連調査 ・佐藤紫煙資料調査 美術作品および資料ならびに作家とその周辺に関する調査	○作品・関連資料の整理、情報の蓄積が進んでいる。 ☆調査依頼を受けながらも、人員不足および調査時間の確保ができずに、手つかずになっている案件がある。

	・福井良之助関連調査 ・佐藤紫煙資料調査 ・その他地域の近現代美術家に係る文献調査および情報収集	
国文学研究資料館共同研究	「一関藩田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究」をテーマとした共同研究（令和6～8年度）	○和歌文学を専門とする研究者により、館蔵資料の研究が進んでいる。 ○研究成果を反映させて、8年度の特別展を実施することとなった。

Ⅴ 大槻家資料保存活用事業

令和5年6月27日付で重要文化財に指定された大槻家関係資料について、修復、研究、公開を計画的に実施するもの。

令和7年度は、修復計画の作成により文化庁の補助金を受け2点を修復した。

また、研究報告会を開催し、講演会と当館職員による研究報告を行った。

事業名	概要（主な内容）	成果と課題（○成果、☆課題）
資料の修復	「塵積成山 第二冊 丁酉集 貫之号」「松平齐民扁額（鴻漸斎）」 2点を文化庁の補助金を受け修復。	○修復により、良好な状態での保存および展示が可能となった。
重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会（再掲） 「言葉と辞書」 11月3日（日・文化の日）・26人	重要文化財「大槻家関係資料」に関する研究成果を公表した。 ①講演「蘭学から日本語学へ、継承と変革 大槻家と日本辞書『言海』」田鍋桂子氏（明海大学准教授） ②報告1「辞書作りの日常 一文彦おじいちゃんの	○国語辞書『言海』の編者として知られる大槻文彦のみならず、学問の家大槻家と言葉との関わりを紹介できた。 ☆遠方からの参加者も見込めるため、広報媒体に工夫が必要。

	場合一」当館職員 ②報告 2 「翻訳語と大槻玄 沢」当館職員	
--	--------------------------------------	--

vi 広報活動

事業名	概要（主な内容）	成果と課題（○成果、☆課題）
博物館年間行事予定表の配付	市内全戸配布（広報掲載） 年間行事案内作成（館内作成・印刷）	○市民に広く年間行事情報を提供した。 ○来館者に年間行事情報を提供した。 ☆広報掲載は1頁の割当のため展覧会の関連行事は掲載できず、周知が遅れた。 ☆配布時期を早める方法の検討。
博物館ホームページの運営	事業紹介、休館のお知らせ	○行事案内をはじめ博物館情報をすみやかに提供した。 ☆更に効果的な情報発信方法の検討。
博物館情報の提供	・各種ポータルサイトへの情報提供 ・博物館だより（月1回市広報活用） ・市ホームページ、Facebook ・新聞、FMあすもの活用 ・各種情報誌への掲載 ・一関図書館や花泉図書館において展覧会のPR動画を上映 ・イオンスーパーセンターでのデジタルサイネージを利用したの情報発信	○適宜、博物館情報の提供に努めた。 ☆更に効果的な提供方法とタイミングの検討。

vii その他

- ・ 機械室送風機更新工事

- ・ 不活化ガス消火設備用蓄電池交換 ほか

- ・ こいこい博物館

まちづくり推進課の「元気な地域づくり事業」を利用し、小学生の親子を対象に、「清庵の里」から食べられる野草について学び、厳美地区の老人クラブ「長生会」と池清掃を行いながら鯉の観察を行った。

- ・ 職場体験学習

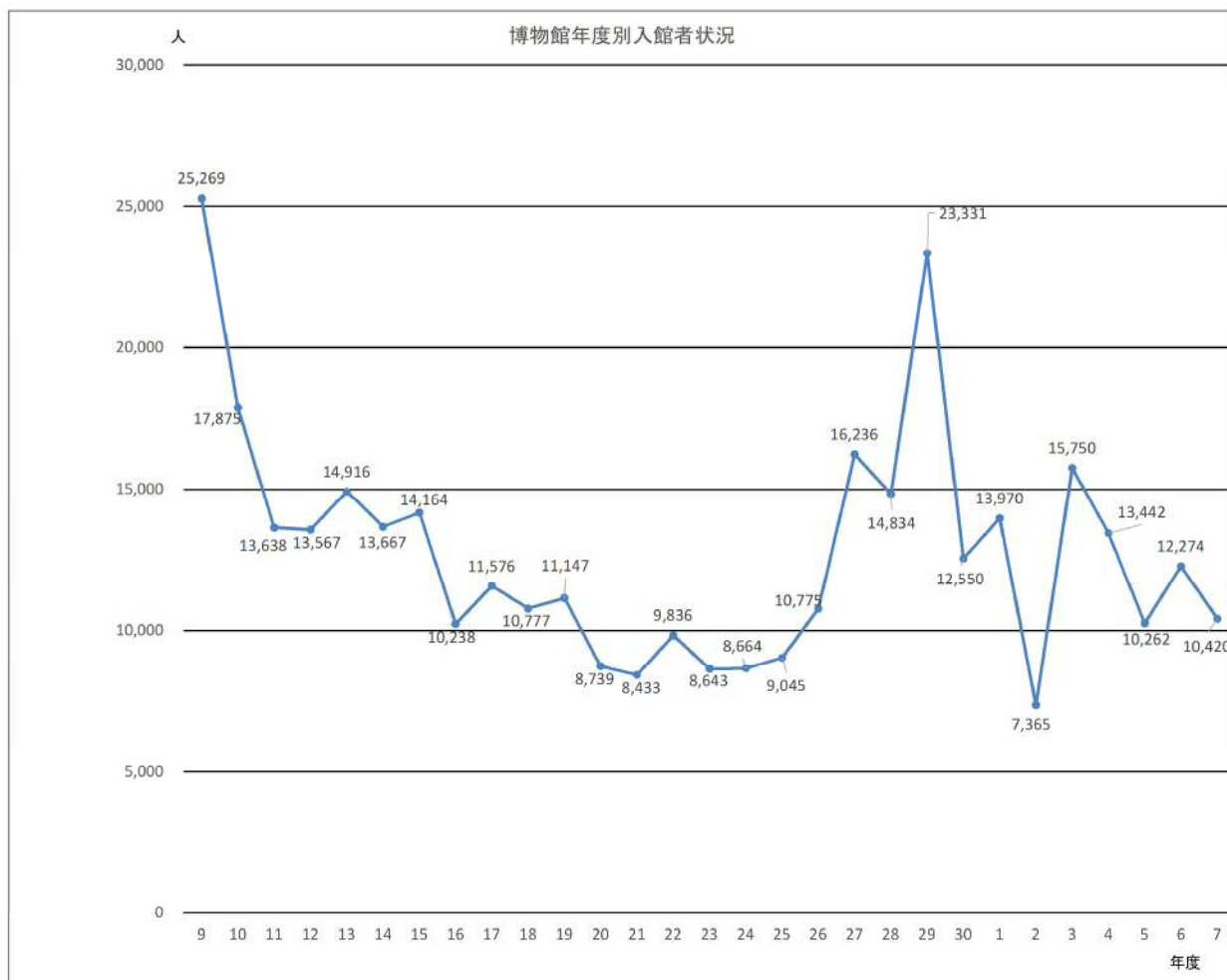
厳美中学校2年生2名の受け入れを行った。

- ・ 岩手県政150周年記念パネル展 令和7年6月25日（水）～7月23日（水）

主催 岩手県(岩手県政150周年記念事業実行委員会)

Ⅲ 資料

1 入館者統計



2 講師派遣等状況

(1) 来館対応

① 展示解説等（学校関係）

No.	月	日	学 校 名	人数
1	6	15	不来方高校 2年生	15
2	6	18	一関小学校 3年生	105
3	7	2	セントラルハイランズ市 高校生	13
4	7	17	中里小学校 6年生	34
5	8	27	山目小学校 6年生	77
6	9	12	滝沢小学校 6年生	21
7	11	19	尚絅学院大学	15
8	1	23	舞川小学校 3年生	15
9	2	12	萩荘小学校 3年生	54
10	2	17	山目小学校 3年生	69
合計				418

② 展示解説等（各種団体）

No.	月	日	事 業 名	人数
1	4	4	一関市新採用職員研修	44
2	4	18	狐禅寺探検隊（狐禅寺市民センター）	15
3	4	30	一関市教育委員会新採用職員研修	23
4	5	9	萩荘ふるさと大学（萩荘市民センター）	29
5	5	15	厳美人生大学（厳美市民センター）	18
6	6	10	北上市相去地区交流センター	31
7	6	20	花巻市高齢者学級まなび学園	16
8	6	25	花巻市高齢者学級まなび学園	20
9	6	27	仙台市八幡地区社会福祉協議会福祉員研修	22
10	6	29	室根市民センター	20
11	7	3	萩荘ふるさと大学（萩荘市民センター）	21

No.	月	日	事業名	人数
12	7	24	厳美人生大学（厳美市民センター）	12
13	7	25	博物館協議会委員	12
14	8	8	厳美第3区元気いきいき教室	14
15	8	24	一関をまるごと応援し隊	14
16	9	9	千厩里山塾（千厩市民センター）	17
17	9	12	台湾関係・地方創生特派員学習ツアー	22
18	9	19	千厩高校教員レクレーション	18
19	9	19	(社)全国公立文化施設協会東北支部業務管理研究会	30
20	10	2	一関市保健推進委員一関支部	47
21	10	7	千厩新町長生会	14
22	10	15	萩荘ふるさと大学（萩荘市民センター）	18
23	10	21	花泉町先人顕彰会	20
24	10	23	厳美人生大学（厳美市民センター）	9
25	11	5	岩沼市区長会様	44
26	11	6	前沢地区連合振興会	17
27	11	16	三春町狐田稻荷神社	13
28	1	29	厳美人生大学（厳美市民センター）	3
29	2	13	萩荘ふるさと大学（萩荘市民センター）	23
30	3	11	朝陽科技大学	5
31	3	26	一関おもしろ館体験バスツアー	28
合計				646

(2) 講師派遣

① ことばの先人講師（出前授業）

No.	月	日	対象	内容	人数
1	1	27	南小学校 5年生	大槻文彦・大槻玄沢	55
2	1	28	赤荻小学校 6年生	大槻文彦	50
合 計					105

② 講師派遣（各種団体）

No.	月	日	事業名	人数
1	6	18	花泉町先人顕彰会講演	50
2	11	2	老松市民センター先人顕彰事業	30
3	11	8	岩手大学リカレント教育プログラム「地域の文化的基盤」	6
合計				86

(3) 参考：学校等自由見学

No.	月	日	事業名等	人数
1	4	10	盛岡大学	113
2	5	30	聖ウルスラ学院英智中学校	16
3	7	10	千厩高校	6
4	8	26	東北学院大学	8
5	8	27	平泉町適応支援教室カラフル	3
6	9	5	東北芸術工科大学	7
7	9	18	室根小学校 3年生	30
8	10	24	多賀城市立東豊中学校	67
9	11	12	磐井中学校 1年生	6
10	11	14	舞川小学校 6年生	14
11	11	15	宮城県立 岩ヶ崎高等学校	11
12	1	28	赤荻小学校 3年生	36
合計				317

(4) 参考：講座・体験学習・その他の交流連携事業の合計

講座	体験学習	その他	合計
375	614	1,387	2,859

令和 8 年度
事業の取り組み状況

目 次

I 展示活動

- 1 常設展示 1
- 2 特別展 1
- 3 企画展 3

II 教育普及（交流連携）活動

- 1 講座 6
- 2 体験学習 9
- 3 その他の教育普及（交流連携）活動 10

III 資料収集・保存・貸与・管理等 11

IV 調査研究活動 12

V 大槻家資料保存活用事業 13

VI 広報活動 13

VII その他 13

令和8年度事業の取り組み状況

※ 当初計画を記し、6月末日現在の情報を補記した。

I 展示活動

1 常設展示

常設展示室

【目 的】

- (1) 地域の歴史と文化を多様な資料により系統的に展示し、広く生涯学習の推進・充実に寄与する。

【内 容】

- (1) 「一関のあゆみ」「舞草刀と刀剣」「玄沢と蘭学」「文彦と言海」「一関と和算」の5テーマおよび昔の道具の展示。研究成果に基づき、随時展示替えを行う。
- (2) 長沼守敬に関する展示
明治時代から大正時代にかけて活躍した一関出身の彫刻家 長沼守敬を顕彰するための展示。エントランスホールにパネルを展示（通年）。

2 特別展

特別展「武家のみやびー初代一関藩主田村建頭と和歌ー」

【趣 旨】

初代一関藩主田村建頭（1656-1678）は、能、絵画、書、和歌、箏、などの文芸にも通じた、好学の藩主と後世に伝えられています。将軍徳川綱吉による文治政治のもと、仙台藩という外様大名の分家大名でありながら奥詰となり譜代列に加えられ、演奏番を長く勤めるという異例の出世を遂げています。これには、公家との交際によって育まれた和歌に対する造詣や人脈が評価され、幕閣の中で存在感を高めていったことが大きな要因であるとされています。元禄期の大名と公家社会との関わり、公家文化の地方への移入とその広がりを和歌を中心に紹介します。

令和6年度より実施している国文学研究資料館共同研究「一関藩田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究」の成果によるものです。

【開催期間】 9月19日（土）～11月23日（日）

【開催日数】 57日間

【展示概要】

（展示構成案）

- I 初代一関藩主田村建顕
- II 歌道の師・岡本宗好と同門の人々
- III 公家とのつながり
- IV 霊元天皇の勅点を受く
- V 建顕の作品
- VI 受け継がれた京との縁

【関連行事】

- (1) 一関藩田村家セミナー～和歌が結ぶ京・江戸・一関～
 - 報告①「初代一関藩主田村建顕の生涯」当館主任学芸員
 - 報告②「建顕と和歌 一師、岡本宗好のことなどー」
大谷俊太氏（京都女子大学教授）
 - 報告③「霊元天皇が見た建顕の和歌」
大山和哉氏（同志社大学准教授）
 - 日時：10月11日（日） 13：30～16：00
 - 定員：100名
- (2) 講座 和歌をよむ・かく・うたうー歌道事始め
 - 日時：11月1日（日） 13：30～15：00
 - 講師：御手洗靖大氏（宮城教育大学講師）
 - 定員：100名
- (3) ギャラリートーク
 - ① 日時：10月10日（土） 14：00～14：45
加藤弓枝氏（名古屋大学准教授）
渡邊美紀氏（東京工業高等専門学校助教）
 - ② 日時：10月11日（日） 16：10～16：40
大山和哉氏（同志社大学准教授）
大谷俊太氏（京都女子大学教授）
当館学芸員
 - ③ 日時：11月1日（日） 15：15～16：00
日高愛子氏（熊本大学准教授）
渡邊美紀氏（東京工業高等専門学校助教）

3 企画展

企画展1 「Museum Bird—資料の中のとりとりどりー」

【趣 旨】

私たちの暮らしの中で鳥は、大変身近な動物です。多くの鳥は「空を飛ぶ」存在であるため、神聖さや自由の象徴になりやすく、信仰対象や縁起のよい（あるいは悪い）生き物として、特別に扱われてきました。例えば、ニワトリは、人が生きていくための食糧となりますが、朝を告げる鳥として、吉兆を司るという考えもあります。当市で伝承されている鶏舞の装束にも、ニワトリが描かれています。また、和歌や俳句では季語として鳥が多く使われますし、絵画や音楽などの芸術においても、題材として表現されています。

本展では、当館が収蔵する資料を中心に鳥が描かれたものや、かたどられたものを、考古・歴史・民俗・美術のジャンルを超えて紹介します。とりどりの資料をとおして、多様な博物館資料の世界をお楽しみください。

【開催期間】 4月18日(土)～6月7日(日)

【開催日数】 44日間

【入館者数】 1,845人(41.9人/日)

【展示概要】 展示点数 30件(53点)

出土した鳥	コノハズク形土製品、貝鳥貝塚出土の鳥骨
装いの中の鳥	打掛
『江戸名所図会』の鳥	江戸名所図会
『環海異聞』の鳥	環海異聞
文字資料の中の鳥	伊達政宗の花押、大槻文彦和歌短冊(重要文化財)
描かれた鳥	鷹図、掛図「鳥類一覧」
矢	矢箱、矢立て、矢法拔書
カラス	起請文
民俗芸能の中の鳥	達古袋神楽「鶏舞」装束一式、演舞プロジェクター上映
ここにも鳥	菓子型、印籠

※展示室では、順路を設定せず自由導線とする。

【関連行事】

(1) 展示解説会

日時および参加者(令和7年度分)

4月18日(土)	13:30～14:10	13人
5月3日(日・祝)	13:30～14:10	12人

5月4日（月・祝）	13：30～14：10	14人	
6月6日（土）	13：30～14：10	12人	計 51人

解 説：当館学芸員

(2) ワークショップ「土の絵の具であそぼう」

講師：菊池咲氏（画家）

日時：5月16日（土）	10：00～12：00	14人	
5月17日（日）	10：00～12：00	16人	計 30人

企画展2「熊野信仰と一関 ―海からやってきた神様―」

【趣 旨】

岩手県内には熊野三山のある本場・和歌山県の2倍以上にあたる200社を超える熊野神社が鎮座しています。一関市にも10社以上の熊野の神を祀る神社が残されています。特に、室根神社は当市を代表する熊野信仰の霊場として知られ、紀伊国（現和歌山県）にいた熊野の神が海を渡り、唐桑半島の細浦（現気仙沼市）に着いたのち、室根山に鎮座したとの由緒を持っています。

当地域は、内陸に位置しながらも、海から伝えられた神への信仰が今も残されており、古くから海との密接なつながりがあったことが分かります。

本展示では、国の重要無形民俗文化財に指定されている「室根神社祭のマツリバ行事」の開催にちなんで、熊野信仰の伝播という視点から、当地域の文化が海とのつながりの中でいかにして形成されたかをご紹介します。

【開催期間】 7月4日（土）～8月23（日）

【開催日数】 44日間

【展示概要】

第1章 熊野信仰の伝播と広がり

第2章 室根山と熊野信仰

第3章 身近な熊野

【関連行事】

(1) 講演会

① 中世陸奥国における熊野信仰の広がり

講師：七海雅人氏（東北学院大学文学部教授）

日時：7月19日（日） 13：30～15：00

定員：50名

② 中世の室根―信仰・交通・領主権力―

講師：当館学芸員

日時：8月16日（日） 13：30～15：00

定員：50名

(2) 展示解説会

日時：7月19日（日） 15：10～16：00

8月2日（日） 15：10～16：00

8月16日（日） 15：10～16：00

(3) 館長講座 「海の道」と中世の神仏

講師：菅田慶信（当館館長）

日時：8月2日（日） 13：30～15：00

定員：50名

(4) 講座「絵画資料からみる熊野信仰」熊野信仰

講師：当館学芸員

日時：7月18日（土）10：30～12：00

8月15日（土）10：30～12：00

定員：24名

(5) 現地見学会

講師：当館学芸員

日時：7月5日（日） 10：00～16：30

定員：20名

行先：補陀寺（気仙沼市）、南流神社、室根神社、室根山

企画展3「佐藤紫煙と知られざる泰斗 滝和亭 ～日本画家二人の下絵～」

【趣 旨】

一関出身の日本画家 佐藤紫煙（1873～1939年）と、紫煙の師である滝和亭（1830～1901年）の下絵を紹介する。紫煙が和亭から受けた影響やふたりの筆遣いの違い、下絵ならではののびやかな描写をご覧ください。完成作品とは異なる味わいをお楽しみください。

【開催期間】 1月23日（土）～3月22日（日）

【開催日数】 51日間

【展示概要】 当館所蔵の佐藤紫煙及び滝和亭関係資料

【関連行事】

(1) スペシャルギャラリートーク・対談&実演

～令和の日本画家はどう見る？ふたりの下絵～

講師：日野沙耶氏（日本画家）、当館学芸員

日時：3月7日（日） 13：30～15：00

定員：15名

(2) ギャラリートーク

日時：1月24日（日） 13：30～14：10

2月20日（日） 13：30～14：10

3月21日（日） 13：30～14：10

Ⅱ 教育普及（交流連携）活動

1 講座

(1) 館長講座（一部再掲）

【目 的】

当地域に関わる館長の研究の一端をわかりやすく紹介する。

【内 容 等】

① 「仏教都市平泉と磐井郡の仏」

日時：6月21日（日） 13：30～15：00 参加者 35人

② 「『海の道』と中世の神仏」

日時：8月2日（日） 13：30～15：00

③ 「中尊寺供養願文を読む」

日時：11月15日（日） 13：30～15：00

④ 「松川の阿弥陀迎接像と楽の世界」

日時：3月28日（日） 13：30～15：00

【対象・定員】 各回一般50人

(2) 超初心者のための絵の見方

【目 的】

美術に関心はあっても「知識がないから楽しめないような気がする」「美術館や博物館に行きたいが気後れする」という鑑賞初心者に、作品鑑賞の楽しさを伝える。

【内 容 等】

学芸員と一緒に館蔵作品を見て楽しむ。

講師：当館学芸員

日時および参加者数 日本画編 2月20日（土） 10：30～11：30

洋画編 3月20日（土） 10：30～11：30

【対象・定員】 各回一般10名程度

(3) 古文書初心者講座（連続講座）

【目 的】

はじめて古文書を学ぶ人を対象に、江戸時代の古文書を教材としてくずし字や古文書の基礎知識を学ぶ講座。

【内 容 等】

日時：5月30日・6月13日・6月27日（いずれも土曜日）13：30～15：00

講師：当館学芸員

【参加者】 延べ59人

(4) 古文書講座（連続講座）

【目 的】

当館所蔵の古文書を解読して、江戸時代の古文書の解読の仕方や、そこからわかる歴史について学び、身近な史料や歴史について、関心を高める。

【内 容 等】

日時：9月20日・10月4日・10月18日（いずれも日曜日）13：30～15：00

講師：当館学芸員

【対象・定員】 一般24人

(5) 和算講座 入門編

【目 的】

江戸時代に発達した日本独自の数学「和算」について、その歴史や特徴、初歩的な知識を解説。岩手県和算研究会と共催。

【講座内容】

① 「単位の話」

日時：7月25日（土） 13：30～15：00

講師：当館学芸員

② 「和算の解き方『點竄術』で小中学生程度の問題を解く」

日時：8月8日（土） 13：30～15：00

講師：千葉秀昭氏（岩手県和算研究会）

③ 「和算課と和歌・俳句」

日時：8月22日（土） 13：30～15：00

講師：菅原 通氏（岩手県和算研究会会長）

【対象・定員】 各回一般24人

(6) 和算講座 研究編（連続講座）

【目 的】

一関出身の和算家千葉胤秀が編集した『算法新書』を通して和算を学ぶ講座。岩手県和算研究会と共催。

【内 容 等】

日時：5月30日、6月27日、7月25日、8月22日、9月19日、10月17日、11月14日
（いずれも土曜日）10：30～12：00

講師：岩手県和算研究会

【対象・定員】 一般24人

(7) 紙の文化史 入門編（連続講座）

【目 的】

和紙や洋紙など身のまわりにある紙について、科学的な特徴や歴史を解説する。

【内 容 等】

日時：6月6日、6月13日（いずれも土曜日）10：30～12：00

講師：当館学芸員

【参加者】 延べ11人

(8) 山口和の道中日記を読む―東北編―（連続講座）

【目 的】

千葉胤秀と親交をもった遊歴和算家山口和。山口和の道中日記から東北を旅した記録を読む。

【内 容 等】

日時：9月19日、10月17日、11月14日（いずれも土曜日）13：30～15：00

講師：当館学芸員

【対象・定員】 一般24人

(9) 絵画資料からみる熊野信仰（連続講座）

【目 的】

絵画資料から熊野信仰について知る講座。

【内 容 等】

日時：7月18日、8月15日（いずれも土曜日）10：30～12：00

講師：当館学芸員

【対象・定員】 一般24人

(10) 重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会 「大槻玄沢と本草・博物」

【目 的】

国の重要文化財に指定された当館所蔵「大槻家関係資料」並びに学問の家大槻家に
関する最新の研究成果を報告する。

8年度は、「大槻玄沢と本草・博物」をテーマとする。

【内 容 等】

日時：11月3日（火・文化の日）13：00～16：30

講演：「大槻玄沢と本草学」

講師：平野恵氏（台東区立中央御図書館専門員・洋学史学会会長）

研究報告

① 「タバコとエブリコー薬への関心ー」 菊池勇夫氏（前当館館長）

② 「チューリップをめぐって」 当館学芸員

【対象・定員】 一般100人

2 体験学習

(1) はくぶつかんこどもくらぶ

当館の展示テーマにちなむ体験学習。

【目 的】

気軽に楽しめる体験やパズル、簡単な工作を通して、歴史や当館の展示に親しむ。

【内 容 等】

① こどもくらぶスペシャル

日時：5月3日（日・祝）・5月4日（月・祝）、5月5日（火・祝）

10：00～15：00 随時受付

参加延人数：126人

② 『舎密開宗』と江戸時代のサイエンスーオリジナル石けんを作ろうー

日時：7月26日（日）10：30～12：00

定員：各回10人程度

(2) 博物館でアートを楽しむ「墨で描こう、春の花」

【目 的】

市民に対し多様な美術体験の機会を提供し博物館に親しんでもらう。市内の美術団
体との交流を図り、協力関係を築く。

【内 容 等】

いわい美術振興協会会員を講師として迎え、美術を楽しむ活動を展開。

いわい美術振興協会との共催。

講師：いわい美術振興協会

日時および参加者：2月21日（日）

午前の部 9：00～12：00

午後の部 13：00～16：00

【対象・定員】

定員：各回15名

対象：小学3年生以上

(3) 第25回 和算に挑戦

【目 的】

和算の問題を解くことで和算について理解を深めてもらう。

【内 容 等】

算額や和算書の中から初級、中級、上級の3段階で問題を提示し、解法を募る。

実際に問題を解くことにより、和算のレベルを体感するとともに、難問に挑戦した和算家の心情を追体験してもらう。岩手県和算研究会と共催。

日時：12月1日（火）から1月20日（日）まで解答を募集。

表彰式：3月14日（日）13:30～15:00

【対象・定員】 特に限定しない

3 その他の教育普及（交流連携）活動

(1) 古文書整理ボランティア

(2) ことばの先人授業

(3) 地域との連携事業

(4) 博物館実習

6月3日(水)～6月10日(水) 3人を受け入れ

Ⅲ 資料収集・保存・貸与・管理等

(1) 資料の受け入れ(寄贈・寄託)

(2) 資料の修復

- ・ 刀剣等の修復
- ・ 絵画等の修復
- ・ 古文書等の修復

(3) 他館の展示への資料の貸し出し

- ・ 巡回展「世界遺産 縄文」 令和7年6月～令和8年3月

会 場：東北歴史博物館、京都文化博物館、群馬県立歴史博物館

貸出資料：動物型土製品（コノハズク） 1点

骨角製品（ヘアピン） 1点 ※文化財課所管、当館保管

動物型骨角製品（カエル） 1点 ※文化財課所管、当館保管

- ・ 岩手県立博物館企画展「すこやかであるために一円環する生・老・病・死」

令和8年6月20日～8月16日

『重訂解体新書銅版全図』ほか 計12点

(4) 環境調査

年度中2回実施予定

(5) 施設燻蒸

12月頃に実施予定

IV 調査研究活動

(1) テーマ

調査研究テーマ	個別研究名称
地域の歴史研究	一関市を中心とする地域の歴史・文化に関する研究
舞草刀・奥州刀の研究	舞草刀・奥州刀の基礎的研究
大槻玄沢と蘭学の研究	在村蘭学者の資料研究
大槻文彦と言海の研究	幕末明治期における大槻家
一関と和算の研究	一関地方の和算関係資料の調査
地域の美術工芸の研究	一関ゆかりの作家たち
博物館研究	博物館における展示および教育普及活動等の研究

(2) 一関市博物館研究報告（研究紀要）の発行

第30号の発刊 A4判

(3) 骨寺村荘園遺跡村落調査研究

骨寺村荘園遺跡を核とした伝統的な村落の姿を多角的な視点から調査研究し、成果を蓄積する。

骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会

日 時：2月中旬、全1回

報告者：村落調査研究事業調査研究協力者

定 員：50人

(4) 古文書等資料調査

古文書未整理資料の整理、目録のデータベース化。

美術資料の写真撮影、整理、調査カードの作成、データベース化、作家およびその周辺の文献調査等。

(5) 共同研究

国文学研究資料館共同研究（令和6～8年度）

テーマ「一関田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究」

V 大槻家資料保存活用事業

令和5年に重要文化財に指定された大槻家関係資料について、修復、研究、公開を計画的に実施するもの。

文化庁の補助金を受けて、重要文化財2点の修復を予定。

研究報告会「大槻玄沢と本草・博物」の開催。(再掲)

日時：11月3日(火・文化の日) 13:00～16:30

講演：「大槻玄沢と本草学」

講師：平野恵氏(台東区立中央図書館専門員・洋学史学会会長)

研究報告

① 「タバコとエブリコ」 菊池勇夫氏(前当館館長)

② 「チューリップをめぐって」 当館学芸員

定員：一般100人

VI 広報活動

- ・ 年間行事案内の公開・配布
- ・ 市広報「博物館だより」コーナーによる情報の発信
- ・ 一関市博物館ホームページの随時更新による最新情報の提供
- ・ 一関市ホームページ「イベントカレンダー」による情報の提供
- ・ 各報道機関へのプレスリリース等
- ・ 図書館のモニターやデジタルサイネージを利用した情報発信
- ・ 市公式Facebookによる情報発信
- ・ 各種情報誌への掲載

VII その他

- ・ スマートフォン、タブレット等の展示解説アプリケーションを利用した展示ガイド
- ・ 設備改修等に伴う臨時休館(11月24日～12月28日を予定)
- ・ 社会体験(6月30日～7月3日) 中学生2名を受け入れ

常設展示

【通史展示】

■ 一関のあゆみ 過去から未来への展望

原始・古代から現代まで、地域の歴史の流れと特色を紹介します。中尊寺の経蔵別当額であった骨寺村社園に関する資料もブースを設けて展示しています。

※経蔵別当
寺の経蔵を収蔵しておく建物を管理・運営する責任者



【テーマ展示】

1 舞草刀と刀剣 日本刀の源流・舞草刀

日本刀の源流・舞草刀の究明を目指す展示です。日本刀の系譜・実用性・美的価値などを全国的視野に立って系統的に紹介します。



2 玄沢と蘭学 蘭学者大槻玄沢の業績

一関藩医建部清庵を師とし、江戸で蘭学の第一人者となった大槻玄沢の生涯と、わが国の近代科学の形成に果たした役割を紹介します。



展示解説アプリ 「ポケット学芸員」

ダウンロードはこちらから



3 文彦と言海 近代的国語辞書の著者

わが国最初の本格的国語辞書『言海』の著者大槻文彦の人物と業績について紹介します。



4 一関と和算 和算隆盛の地一関

一関地方が全国的にも和算隆盛の地であったことを、千葉勘秀とその門弟の活躍を通して紹介します。ゲームで和算を体験することもできます。



5 長沼守敏

明治時代に活躍した一関出身の洋風彫刻家、長沼守敏について紹介します。



入館料

区分	料金	団体(20人以上)
中学生以下	無料	無料
高校生・大学生	200円	1人につき160円
一般	300円	1人につき240円

※65歳以上の一関市民の方(証明書類提示)と障がい者・介護者の方(身体障害者手帳等提示)は免除されます。

共通入場券

有効期間	料金	対象施設
1年間	1,000円	一関市博物館 芦東山記念館 石と賢治のミュージアム 大龍キリシタン殉教公園
10日間	500円	

入館無料日

企画展・特別展の初日、国際博物館の日5/16④、17④、開館記念ウィーク10/6④～12④、東北文化の日10/31④、11/1④、文化の日11/3④。

休館日

毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
施設工事等のための休館日 11/24④～12/28④、
年末年始12/29④～1/3④

開館時間 9:00～17:00(ただし、入館は16:30まで)

交通案内

- 自動車
一関ICより約7分(5km)
一ノ関駅より車で約17分(9km)
- 路線バス
一ノ関駅から約20分(飯沼バス停下車徒歩7分)



この「年間行事案内」に対するお問合せ、参加申込みは、一関市博物館まで
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>

一関市博物館 検索



令和8年度 2026.4～2027.3

一関市博物館 年間行事案内

特別展

武家のみやび

—初代一関藩主 田村建顕と和歌—

共催：国文学研究資料館、同志社大学

初代一関藩主田村建顕は、外様大名伊達氏の分家大名ながら、幕府奏者番の要職を長く勤めており、忠臣蔵で知られる浅野内匠頭の間腹に因った事は有名です。一関藩では、学問立藩の構想を描いた理想の藩主として尊敬されました。その建顕、実は歌人としても名高く、和歌を通じて公家と交わり、その人脈がまた彼の栄達を支えました。元禄時代の和歌を巡る人々の交流、武家の社会にみる京のみやびを紹介します。

会期 9月19日④～11月23日④

※会期中展示替があります

入館無料日

9月19日④展覧会初日、10月6日④～12日④開館記念ウィーク、
10月31日④・11月1日④東北文化の日、11月3日④文化の日

関連行事

■一関藩田村家セミナー

日時/10月11日④ 13:30～16:00

講師① 大山和哉氏(同志社大学准教授)

講師② 大谷俊太氏(京都女子大学教授)

講師③ 当館学芸員

定員100名、参加無料、要電話申込

■講座 和歌に親しむ(仮)

日時/11月1日④ 13:30～15:00

講師 御手洗靖氏(宮城教育大学講師)

定員100名、参加無料、要電話申込

■ギャラリートーク

①10月10日④ 14:00～14:45

加藤弓枝氏(名古屋大学准教授)

渡邊美希氏(東京工業高等専門学校助教)

②10月11日④ 16:10～16:40

大山和哉氏(同志社大学准教授)

大谷俊太氏(京都女子大学教授)

当館学芸員

③11月1日④ 15:15～16:00

日高愛子氏(熊本大学准教授)

渡邊美希氏(東京工業高等専門学校助教)

入館料必要、申込不要

企画展

企画展 1

Museum Bird —資料の中の鳥とりどり—

4月18日④～6月7日④
入館無料日 4月18日④、
5月16日④、17日④

館蔵資料を中心に鳥が描かれたものや、かたどられたもの、を、考古・歴史・民俗・美術のジャンルを超えて紹介します。

【関連行事】

■展示解説会

日時/4月18日④ 13:30～14:10
5月3日④⑤ 13:30～14:10
5月4日④⑤ 13:30～14:10
6月6日④ 13:30～14:10

入館料必要、申込不要

■ワークショップ 「土の絵の具であそぼう」

日時/5月16日④ 10:00～12:00
5月17日④ 10:00～12:00

内容/日本画に用いる土の絵の具を使って、鳥の下絵に色を付けます。

講師/菊池咲氏（画家）

定員各15名、参加料 100円、電話申込必要



企画展 2

熊野信仰と一関 —海からやってきた神様—

7月4日④～8月23日④
入館無料日 7月4日④

国の重要無形民俗文化財「室根神社祭のマツリハ行事」の開催に合わせ、熊野信仰の伝播という視点から、当地域の文化が海とのつながりの中でいかにして形成されたかを紹介します。

【関連行事】

■講演会① 中世陸奥国における熊野信仰の広がり

日時/7月19日④ 13:30～15:00
講師/七海雅人氏（東北学院大学文学部教授）
定員50名 参加無料 電話申込必要

■講演会② 中世の室根—信仰・交通・領主権力—

日時/8月16日④ 13:30～15:00
講師/当館学芸員
定員50名、参加無料、電話申込必要

■展示解説会

日時/7月19日④ 15:10～16:00
8月2日④ 15:10～16:00
8月16日④ 15:10～16:00

入館料必要、申込不要

■現地見学会

一関市内に残る熊野神社をめぐり、信仰の伝播という視点から内陸と海の交流の在り方を現地で当館学芸員が解説します。

日時/7月5日④（時間未定）
定員20名、電話申込必要

企画展 3

佐藤紫煙と知られざる泰斗 滝和亭 ～日本画家ふたりの下絵～

1月23日④～3月22日④⑤
入館無料日 1月23日④

一関出身の日本画家 佐藤紫煙（1873～1939年）と、紫煙の師である滝和亭（1830～1901年）の下絵を紹介します。紫煙が和亭から受けた影響やふたりの筆遣いの違い、下絵ならではのびやかな描写をご覧ください。完成作品とは異なる味わいをお楽しみください。

【関連行事】

■スペシャルギャラリートーク・対談&実演

～令和の日本画家はどう見る？ふたりの下絵～

日時/3月7日④ 13:30～15:00

講師/日野沙耶氏（日本画家）

当館学芸員

定員15名 参加無料 電話申込必要

■ギャラリートーク

日時/1月24日④、2月20日④、3月21日④
各回 13:30～14:10

入館料必要 申込不要

講座

館長講座

① 仏教都市平泉と磐井郡の仏

日時/6月21日④ 13:30～15:00

② 「海の道」と中世の神仏

日時/8月2日④ 13:30～15:00

③ 中尊寺供養願文を読む

日時/11月15日④ 13:30～15:00

④ 松川の阿弥陀迎接像と楽の世界

日時/3月28日④ 13:30～15:00

講師/豊田慶信（当館館長）

定員各回50名 参加無料 電話申込必要



館長 豊田慶信

和算講座—研究編—（連続講座）

一関の和算家千葉胤秀が編集した『算法新書』の解説を通して和算を学ぶ連続講座です。

日時/1/15/30④、2/6/27④、3/7/25④、
4/8/22④、5/9/19④、6/10/17④、7/11/14④
各回 10:30～12:00

定員24名 参加料/300円（初回のみ） 電話申込必要

和算講座 入門編

和算の基本や歴史について、わかりやすく解説します。

① 単位の話

講師/当館学芸員

7月25日④ 13:30～15:00

② 和算の解き方『點算術』で小中学生程度の問題を解く

講師/千葉胤昭氏（岩手県和算研究会）

8月8日④ 13:30～15:00

③ 和算家と和歌・俳句

講師/菅原通氏（岩手県和算研究会会長）

8月22日④ 13:30～15:00

定員各回24名 参加無料 電話申込必要



和算の算（豊田氏より）

講座

山口和の道中日記を読む—東北編—（連続講座）

千葉胤秀と親交をもった遊歴和算家山口和。山口和の道中日記から東北を旅した記録を読む講座です。

日時/1/9/19④、2/10/17④、3/11/14④
各回 13:30～15:00

講師/当館学芸員

定員各回24名 参加無料 電話申込必要



紙の文化史—入門編—（連続講座）

和紙や洋紙など身のまわりにある紙について、科学的な特徴や歴史を解説します。

日時/1/6/6④、2/6/13④
各回 10:30～12:00

講師/当館学芸員

定員24名 参加無料 電話申込必要



ミツマタの花

超初心者のための絵の見方

絵画鑑賞初心者の方みなさんを募集します。学芸員と一緒に絵を見て楽しみませんか。今年度は、絵に秘められた物語を読み解きながら、学芸員の仕事の一端を紹介します。

① 日本画編「眼光鋭い鳥と、身を隠すカミキリムシ」の絵

（佐藤紫煙）を読み解く

日時/2月20日④ 10:30～11:30

② 洋画編「肩に籠を乗せた筋肉隆々の半裸の男たち」

の絵（森本に平）を読み解く

日時/3月20日④ 10:30～11:30

講師/当館学芸員

定員各回10名程度 参加無料 電話申込必要



絵画資料からみる熊野信仰（連続講座）

絵画資料から熊野信仰について知る初心者向けの講座です。

日時/1/7/18④、2/8/15④ 各回 10:30～12:00

講師/当館学芸員

定員各回24名

参加無料、電話申込必要

古文書初心者講座（連続講座）

はじめて古文書を読む人を対象に、江戸時代の古文書を教材としてくすし字や古文書の基礎知識を学ぶ連続講座です。

日時/1/5/30④、2/6/13④、3/6/27④
各回 13:30～15:00

講師/当館学芸員

定員24名（初心者に限ります）

参加料300円（初回のみ）、電話申込必要

古文書講座（連続講座）

当館所蔵の古文書を題材として、江戸時代の古文書の解説の仕方や、そこからわかる歴史について学びます。

日時/1/9/20④、2/10/4④、3/10/18④
各回 13:30～15:00

講師/当館学芸員

定員24名

参加料300円（初回のみ）、電話申込必要

講座・体験学習などの申し込み受け付け開始は5月1日④から

重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会

学問の大家大槻家に関する最新の研究成果を報告します。

テーマ 大槻玄沢と本草・博物

●講演/大槻玄沢と本草学

講師/平野恵氏（台東区立中央図書館専門員・洋学史学会会長）

●報告①/「タバコとエブリコ—薬への関心—」

講師/菊池勇夫氏（前当館館長）

●報告②/「チュールリップをめぐる」

講師/当館学芸員

日時/11月3日④文化の日 13:00～16:30

定員100名 参加無料 電話申込必要

体験学習

👉はくぶつかんこどもくらぶ

当館の展示テーマにちなむ体験学習。親子で楽しもう。

① こどもくらぶスペシャル

気軽に楽しめる体験やパズル、簡単な工作ができます。大人の方でもどうぞ。

体験/昔の遊び、智恵の板、骨寺村絵図パズル

工作/不思議なコップ etc

日時/5月3日④⑤～5日④⑤

10:00～15:00 随時

申込不要 材料が無くなり次第終了
人数を制限する場合があります。



② こどもくらぶ『含密開宗』と江戸時代のサイエンス

—オリジナル石けんを作ろう—

日時/7月26日④ 10:30～12:00

内容/『含密開宗』は、西洋の知識を国内に紹介した江戸時代の化学書で、大槻玄沢の弟子が記しました。オリジナル石けん作りをして、江戸時代のサイエンスを体験します。
持ち物/なし 汚れてもいい服装でお越しください。
定員各回10名程度 参加料100円 電話申込必要

👉博物館でアートを楽しむ

「墨で描こう、春の花」

博物館に親しんでいたために、美術体験を楽しんでもらおうという催しです。

いわい美術振興協会を講師に迎えます。

日時/2月21日④

午前の部 9:00～12:00、午後の部 13:00～16:00

定員各回15名（小学3年生以上） 参加料100円

電話申込必要

👉和算に挑戦

日本の数学・和算の問題を解いてみよう。初級、中級、上級の問題の解答を募集します。

日 程/12月1日④に問題と応募要領を発表、

郵送で解答を受け付けます。

締め切り/1月20日④ 消印有効

表彰式/3月14日④ 13:30～15:00

応募者は3月末日までに解答集をお送りします。 一関/熊野神社 舞踊（復元）

👉このマークは小学生も参加可能な行事です。
その他、行事に関する詳細はお問合せください。

予定が変更となる場合があります。最新の情報は、当館ホームページまたは電話にてご確認ください。

魂が蘇る聖地、紀州・熊野。

その信仰は奥州へ。

室根山―祈りが息づく

もう一つの聖地。

企画展

熊野信仰と一関

―海からやってきた神様―

令和8年

7/4 **土** ▶ 8/23 **日**

休館日／毎週月曜日、但し、7月20日(月)、8月10日(月)は開館
7月21日(火)、8月11日(火)が休館

室根大祭の神輿の先着争い

一関市博物館

〒021-0101 岩手県一関市巖美町字沖野々215-1
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>

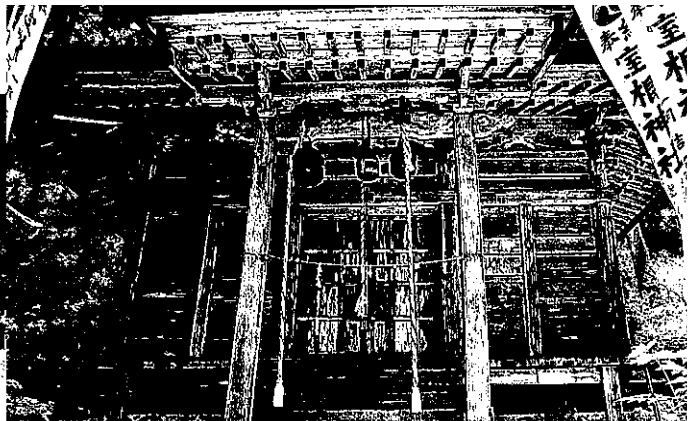
TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006



企画展 熊野信仰と一関

—海からやってきた神様—

室根山



室根神社

和歌山県の熊野本宮大社、熊野速玉神社、熊野那智大社は、霊場として知られ、「蟻の熊野詣」と呼ばれるほどに多くの人々の篤い信仰を集めています。

熊野信仰は、全国各地にみられますが、特に東北地方は熊野信仰が浸透していたことが知られています。岩手県内には200社以上の熊野神社が鎮座しており、その数は本場・和歌山県の2倍以上にのぼります。一関市には10社を超える熊野の神を祀る神社が残されています。

なかでも室根神社は当市を代表する熊野信仰の霊場です。社伝によれば、紀伊国の熊野の神が海を渡り、気仙沼市唐桑半島の細浦へと降り立った後、室根山に鎮座したとされています。

本展では、閏年の翌年に開催される国指定重要無形民俗文化財「室根神社祭のまつりバ行事」にちなみ、荒波を越えて伝わった熊野の神への信仰がいかにして地域に受容されたのか、その悠久の歴史を紐解きます。

❖ 講演会①

中世陸奥国における熊野信仰の広がり

講師／七海 雅人氏（東北学院大学文学部教授）

日時／7月19日④ 13:30～15:00

定員／50名、参加無料、電話申込必要

❖ 講演会②

中世の室根 —信仰・交通・領主権力—

講師／当館学芸員

日時／8月16日④ 13:30～15:00

定員／50名、参加無料、電話申込必要

❖ 現地見学会

室根山近郊の熊野信仰と所縁の地をめぐり、信仰の伝播という視点から内陸と海の交流の在り方を現地で当館学芸員が解説します。

見学先／室根山、室根神社、南流神社、補陀寺（気仙沼市）

当館で集合・解散、庁用バスで移動

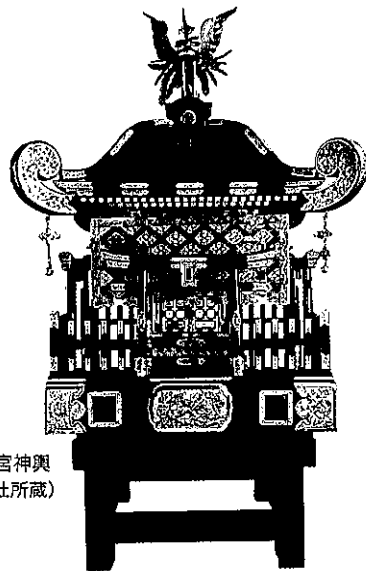
講師／当館学芸員

日時／7月5日④ 10:00～16:30、9時50分集合

定員／20名、参加無料、電話申込必要



熊野牛王宝印
（『慶積成山』所収）



本宮神輿
（室根神社所蔵）

❖ 館長講座

『海の道』と中世の神仏

講師／菅田 慶信（当館館長）

日時／8月2日④ 13:30～15:00

定員／50名、参加無料、電話申込必要

❖ 講座

絵画資料からみる熊野信仰

講師／当館学芸員

日時／7月18日④、8月15日④ 10:30～12:00

定員／24名、参加無料、電話申込必要

❖ 展示解説会

計3回 要入館料 申込不要

日時／7月19日④、8月2日④、8月16日④

15:10～16:00

一関市博物館

開館時間 9:00～17:00
（入館は16:30まで）

入館料

一般 300円(240円) 高校生・大学生 200円(160円)
中学生以下 無料 ※()内は団体(20名以上)割引料金

入館無料日 7月4日(土)

〒021-0101 岩手県一関市殿美町字沖野々215-1
TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>

次の方々の入館料は免除いたします

①障がい者・介護者の方（障がい者手帳などを提示願います）

②65歳以上の一関市民の方（年齢・住所が証明できるものを提示願います）

最新の情報は、当館ホームページまたは本誌にてご確認くださいませませうお願いいたします





受け継がれてきた景色には、未来をつくる力がある。

900年の
時を紡ぎ、
未来へつなぐ

— 骨寺村荘園の魅力とこれからの可能性 —

骨寺村荘園遺跡900年記念講演会

900年受け継がれてきた骨寺村荘園遺跡。

その価値をあらためて見つめ直し、

歴史・文化・地域づくり・観光の視点から、

未来へつなぐ可能性を探る講演会です。

2026
8/29 土 13:00 - 16:00
(開場/12:30)

SWS東日本シビックホール一関
中ホール (一関文化センター) 一関市大手町2番16号

入場無料
先着順

H o n e d e r a m u r a
S h ō e n I s e k i 9 0 0 t h

[主 催] 一関市、一関市教育委員会
[共 催] 本寺地区地域づくり推進協議会、骨寺村ガイドス運営協議会
[後 援] 中尊寺、一般社団法人一関観光協会



900年の 時を紡ぎ、 未来へつなぐ

骨寺村荘園遺跡 900年記念講演会

Honederamura
Shoen Iseki 900th



900年にわたり受け継がれてきた骨寺村荘園遺跡。その価値は、歴史的な景観だけでなく、地域に暮らす人々が守り育ててきた文化や営みにもあります。本講演会では、調査研究から見てきた骨寺村荘園遺跡の魅力をひも解くとともに、その価値を「地域の力」へと変え、観光や交流、持続可能な地域づくりへつなげる可能性について考えます。

歴史・文化・観光・地域づくりの第一線で活躍する専門家が集い、骨寺村の未来を語る貴重な機会です。

骨寺村荘園遺跡
900年記念事業に
ついて詳しくはこちら



日時
会場

2026 8/29 土 13:00-16:00 (開場/12:30)

SWS東日本シビックホールー関 中ホール
(一関文化センター) 一関市大手町2番16号

登壇者

総合司会・パネリスト

タレント(ホリプロ所属)

渡辺 裕太 氏

1989年生まれ、東京都出身。俳優・タレントとして映画、舞台、テレビなど幅広い分野で活躍。親しみやすいキャラクターと軽快なトークで人気を集める。野菜ソムリエの資格も持ち、食や健康への関心も高い。2022年10月からテレビ岩手『5きげんテレビ』に金曜MCとして出演中。

基調講演 講師

一関市博物館 館長

菅田 慶信 氏

1950年山形県生まれ。東北大学大学院文学研究科前期課程修了。博士(文学)。岩手県立大学盛岡短期大学部教授を経て、現在は同大名誉教授、一関市博物館館長などを務める。2025年に著書『在家百姓の神と仏—中尊寺領骨寺村に立つ—』(高志書院)を出版。

パネルディスカッションコーディネーター

平泉世界遺産ガイドセンター センター長

八重樫 忠郎 氏

1961年岩手県生まれ。東北大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。専門は中世考古学。平泉町教育委員会文化財調査員を経て、現在は岩手県立平泉世界遺産ガイドセンター長を務める。現在、岩手日報にて「900年の時を経て—平泉研究最前線—」を連載中。

パネリスト

東京都立大学 人文社会学部 教授

山下 祐介 氏

1969年生まれ。九州大学助手、弘前大学准教授等を経て2018年より現職。専攻は社会学。『現代思想』(青土社)にて「社会は生きている」を連載中。著書に『限界集落の真実』(ちくま新書)『環白神の世界』(平凡社)などがある。

パネリスト

骨寺村荘園米オーナー

北村 直理 氏

1991年生まれ。岩手大学大学院農学研究科修了。有限会社KBC取締役。本寺地区の景観に惹かれ、地域行事に15年・骨寺村荘園米オーナー制度に9年参加し続ける。現在は農業にも携わり、本寺地区との出会いが農業に関わる転機となった。

パネリスト

星槎大学 非常勤講師

野続 祐貴 氏

1994年生まれ。千葉県出身。株式会社北洋銀行・地域連携DMOである一般社団法人KIX九州ツーリズムビューローを経て、現在、星槎大学非常勤講師、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士後期課程在籍中。専門は観光学・祭祀研究。

講演会プログラム

- 13:00 開会・主催者挨拶
- 13:10 基調講演(約60分)
 - [演 題]「骨寺村荘園遺跡の価値を紐解く
～神と仏の坐す骨寺村を歩く～」
 - [講 師]一関市博物館 館長/菅田 慶信 氏
- 14:10 休憩(10分)
- 14:20 パネルディスカッション(約90分)
 - [テーマ]「骨寺村から創る新たな交流人口のカたち」
 - [登壇者]
 - 平泉世界遺産ガイドセンター センター長/八重樫 忠郎 氏(コーディネーター)
 - タレント(ホリプロ所属)/渡辺 裕太 氏(パネリスト)
 - 東京都立大学 人文社会学部 教授/山下 祐介 氏(パネリスト)
 - 骨寺村荘園米オーナー/北村 直理 氏(パネリスト)
 - 星槎大学非常勤講師/野続 祐貴 氏(パネリスト)
- 15:50 閉会の挨拶
- 16:00 閉会